

教主様ご巡教 信徒大会 理事長挨拶

皆さま、「教主様ご巡教 信徒大会」、誠におめでとうございます。

教主様におかれましては、今教団が直面している問題の中にあって、世界救世教「責任役員会」と称する人たちからの圧力と妨害を全身にお受けになっているにも拘らず、私どものために万難を排してご出座賜りましたこと、誠にありがたいことと心より感謝申し上げます。

また、本日は、教主夫人であられます岡田まゆみ様と、岡田真明教主補佐にご臨席いただいておりますので、ここでご紹介させていただきます。

奥様、教主補佐、恐れ入ります、どうぞお立ちくださいませ。

ありがとうございます。

そして、本日は、いつのめ教団から、教主様のご教導を心から求めて止まない方々を代表して、北陸関西教区を中心に約820名の信徒の方々がご参加になっています。

いつのめ教団の皆さま、本日は、本当によろそご参加くださいました。

①之光教団の皆さま、どうか盛大な拍手をもってお迎えさせていただきたいと存じます。

私ども①之光教団にとりましても、「春季大祭」に続いて、大きく勇気づけられる「大会」となりましたこと、今日ご参拝のすべての皆さまに心より感謝申し上げます。

本日は、はじめに、皆さまに大切なお知らせがございます。

今、いつのめ教団では、東方之光(MO A)に追随している小林執行部が、教主様と共に明主様の真実を求めて歩む世界中の多くの方々に対して、傍若無人に権力を行使し、7名の専従者を懲戒解雇処分とし、また、給与や人事面においても多くの専従者に圧力をかけています。

こうした圧力や妨害を受けている方々は、それでもなお、教主様のご教導に与り、「全く新しい信仰」を大切に受け止めている信徒の方々と共に歩む覚悟をもって進んでおられます。

私は、かねてより、私どもと志を同じくする世界中の方々との連携、協働を大切に進ませていただく旨、申し上げてまいりました。

この度、①之光教団「責任役員会」は、世界救世教①之光教団の中に「いつのめ教区」を設け、教主様のもとに、それぞれの主体性をもって、共に「全く新しい信仰」の灯を決して絶やさぬよう進ませていただくことを決定致しました。

皆さま、本日を新たなスタートの日とさせていただき、教主様のお導きのもと、明主様の真実をお受けし、お伝えしていく「全く新しい信仰」の道を、喜びと希望をもってご一緒に歩ませていただきますよう。

さて、私は、全国の信徒の皆さまに、世界救世教の中で起きていることの真実を、「内報」を通じてありのまま、詳らかにお伝えしております。

東方之光(MOA)といづのめ教団小林執行部は、現在も、世界救世教から教主様と㊦之光教団を排除し、また、いづのめ教団にあって、教主様のご教導を心から求める多くの方々に様々な圧力をかけ、教団の骨格を大きく変質させようとしています。

本日のご巡教につきましても、彼らは、㊦之光教団と㊧之光教団「いづのめ教区」が連動して、近々、世界救世教から離脱しようとしているとのあらぬ理由をもって、教主様に対して、東方之光の長澤好之氏名で「くれぐれも、ご出席されることのなきよう、強く強く求める」と、脅しをかけてきたと聞いております。

また、彼らは、世界救世教「責任役員会」と称して、岡田真明教主補佐に対し、いづのめ教団若手専従者との懇談会においてのご発言が、懲戒規程に該当するという、全く的外れの嫌疑をかけ、審定委員会への出席を通知してきました。今後彼らは、真明様を懲戒解雇処分にし、「真明様を世界救世教から追放した」と主張してくることも十分予想されることでもあります。

世界救世教にとって、事実上の教主継嗣であられ、教主様にとりまして唯一の後継者であられる真明様を無きものにすることにより、彼らはその先に、意の如くなる教主擁立、もしくは、教主制廃止をも画策しているやに思われます。

私どもは、世界救世教「責任役員会」と称する人たちの、^{ごうがん ふ そん}傲岸不遜とも思える態度に、決して屈する訳にはまいりません。

そして、㊦之光教団内部でも、教団からお手当てを支給されていた名誉職のごく一部の人たちと、3名の布教所長らが彼らと結託し、身分保障を取り付けた上で、世界救世教直轄というまやかしの言葉を使い、「聖地直結の会」と称する偽りの会を立ち上げ、㊦之光教団信徒を誘い込もうとしています。誠に残念でなりません。

世界救世教の憲法とも言える「教規」には、「世界救世教の信者は、『おひかり』を拝受し、各被包括宗教団体に登録された信者又は会員とする」と、明確に定められており、従いまして、「聖地直結の会」に所属することが世

界救世教の信徒であるとは規則上認められておりません。

にも拘らず、世界救世教「責任役員会」と称する人たちは、「聖地直結の会」の活動拠点を熱海救世会館の1階に設け、担当役員まで設置し、支援していくことを表明しています。

また、「聖地直結の会」は、現在、㊦之光教団の布教施設を一カ所不法にも占拠し、銀行に偽りの理由を告げ、布教所の銀行口座名を勝手に変更するなど、全く社会と教団のルールを無視した行為にまで及んでいます。

「聖地直結の会」と称する人たちは、教主様に対して尾行・盗聴・盗撮に及んだ東方之光(MOA)と、その許されない行為を容認し、追随しているいづのめ教団小林執行部の庇護を受け、一体何をしようとしているのでしょうか。

全国の信徒の皆さまには、こうした人たちからの誘いに惑わされることのないよう、くれぐれもお気をつけいただきたいと思います。

先日の「月次祭」にてお伝えしましたように、世界救世教は、平成9年に教団浄化から和解し、その後、包括・被包括体制として進む中で、「教主様のもとに全信徒が一つ心となり、救世主・明主様の御心を求め、その実現に向かって、和合結束して歩み出す」(大経綸12号)ことを、世界中の信徒に表明いたしました。

この「表明」は、偽りの表明だったのでしょうか。

私どもは、現在、教主様の神聖な承認行為を蔑ろにし、㊦之光教団を排除するという、教団の骨格と秩序を破壊する規則変更に対抗する署名活動に取り組んでいます。

全国の専従者、信徒の皆さまのお取り組みのもと、お蔭様にて現在1万名を超える署名をいただき、いづのめ教団有志が取り組まれている約3万名の署名と共に、合計約4万名の署名簿を週明け早々に文化庁に提出させていただきます。ありがとうございました。

私どもは、今後も引き続き5月20日まで更なる署名活動を推進し、今日までにいただいた署名も含めて裁判所へも提出させていただきたく、全国の皆さまにはなお一層のご協力を、どうぞよろしくお願い致します。

さて、私は、現在教団が直面している状況の中で、最も大切なことは、“すべてを統括し、お計らいくださっている神様の方からご覧になったら”という視点に心を向ける営みではないかと、繰り返しお伝えしてまいりました。

そして、一人ひとりが、明主様の真実をより一層お受けし、明主様が人類の救いにとって極めて重大なこととしてお示しになった、「全く新しい信仰」

を深めていくチャンスとさせていただきたいと、強く願っております。

ところで、「全く新しい信仰」の“新しい”とは、一体何を意味する言葉なのでしょうか。

私は、神様が今、教団の問題を通して、明主様が仰せになった“新しい”、ということの真の受け止めを、私ども一人ひとりに教えてくださろうとしているのではないかと存じます。

そして、私は、この神様のみ心をお受けするには、み教えの神髄をひたすら求め、お伝えくださる教主様のご教導が決して欠かせないものであると実感しております。

私は、世界救世教の信仰にとって“新しい”という言葉が指し示すもの、それは、「夜昼転換」をお受けになった明主様のみ心を、私ども一人ひとりが自らのこととしてお受けすることなのではないかと受け止めています。

明主様は、昭和6年6月15日に「夜昼転換」の天啓をお受けになり、4年後の昭和10年に本教を立教され、闇の世界である「夜の時代」の終焉と、大光明世界たる「昼の時代」の到来を確信をもって宣言されました。

そして、明主様は、「光のお言葉」をもって私ども人類に対して、“神の光のもとに来れと、そして、メシヤの御名を奉称せよ、さらば救われん”との旨、お示しになりました。

（「光のお言葉」は、昭和10年、「光明世界」創刊号で発表された明主様の御言葉であり、「メシヤの御名」については、平成29年教主様新年ご挨拶参照）

さらに、明主様は、昭和25年に本教を「世界救世(メシヤ)教」とされ、ご昇天の前年、昭和29年の「メシヤ降誕」のご事蹟を、人類の救いにとって極めて重大なこととしてお示しになりました。

私ども世界救世教の信徒は、こうしたご事蹟をお示しになった明主様に強く結ばれているものであります。

私は、明主様が、全人類と万物と共に「夜昼転換」をお受けになったみ心をもって、こうした一連のご事蹟を通して、私ども一人ひとりにも、「夜の時代」にピリオドを打ち、新しくなりなさいと、今強く迫ってきてくださっているのではないかと思わせていただいております。

ですから、私は、「夜昼転換」を感得された明主様が、「光のお言葉」をもって呼び掛けてくださっているみ心をお受けし、明主様と共にあるメシアの御名にあって、天国に立ち返らせていただくことが、「全く新しい信仰」の道であり、私ども世界救世教の信徒が歩ませさせていただく本当の道であると固く信じております。

明主様は、「諸人の心の岩戸開くれば此世の闇は打消ゆるらむ」とお歌にお詠みになり、私どもが心の岩戸を開きさえすれば、私どもの中心にはすでに、大光明燦然と輝く光が到達していることを、み教えくださっているのではないのでしょうか。

私どもは、「真善美」配布を力とする「会う、聞く、浄霊」を中心とした日常生活の様々な事柄に際して、“想念の御用”、“想念の実践”をもってお仕えさせていただく「全く新しい信仰」の道が、私ども自身の「夜昼転換」であり、“心の岩戸開き”であると信じて、感謝と希望を胸に嬉々として歩ませていただきたいと存じます。

そして、私どもは、教主様のご教導に与り、この天国の道を歩ませていただくことが、“神様の子どもたるメシアとして新しく生まれる”、“養いをお受けすることに、真っ直ぐに繋がっているものと信じて進ませていただきましょう。

本日はこの後、㊦之光教団「いづのめ教区」の白澤代表のご挨拶に続いて、いづのめ教団と㊦之光教団の代表の方々が感謝奉告をしてくださいますが、私どもの大切な学びとさせていただきたいと思えます。

そして、教主様のお言葉を賜ります。

私どもは、本日賜りますお言葉を心の中心に銘記し、教主様と一つ心で、明主様を模範として主神にお仕えさせていただく本当の信仰へと、希望に胸を膨らませ進ませていただきましょう。

今日から始まる新たな信仰のステージにおいて、皆さまの上に、大いなるみ恵みと安らぎを賜りますよう祈念し、私の挨拶とさせていただきます。

教主様のお出ましの前に、大切な時間を賜りましたこと感謝申し上げます。
ありがとうございました。